浜風だより

令和6年4月1日発行
第６０号
浜崎しっちょる会広報委員会
連絡先　旧山村家住宅　TEL（0838）22-0133
浜崎ホームページ

本と美容室、萩・浜崎へ

浜崎一区の旧松屋生花店の修理・改修が完了し「本と美容室」のお店がオープンします（6月予定）。店舗を運営される神奈川県の「**アタシ社**」さんよりお便りを頂きました。
5月のおたから博物館では内部見学ができます。

きっかけは一通のメールでした。

「萩にこそ、こういう場所がほしい」
　私たちアタシ社が展開している美容×書店の事業「本と美容室」のお問合せフォームに届いた“お便り”。送り主は萩市民の方でした。それまでも複数の地域の方から出店希望のご連絡をいただいていました。が、これほど熱量を感じたことはありませんでした。
　さっそく浜崎地区を訪ねてみた私たちは、その地に立った瞬間、不思議な懐かしさを覚えました。私たちが美容室や蔵書室カフェ、雑貨店を営んでいる神奈川県三浦市の三崎も港町。土地の来歴や風土は違えど、港町特有のおおらかさや、地元の人の土地への愛着が、どこか三崎に似ている気がしました。そして浜崎の美しい風景に、誇り高く優しい人たちに、私たちは魅せられました。
　私たちの本業は出版社です。ただ、出版も書店も、今はとても厳しい時代。私たちなりに出版文化を守り育んでいくために、編み出したのが「本と美容室」という事業です。
　書店は人の生活を豊かにするけれど、収益性が低い。美容室は誰もが必要とし、収益性が高い。このふたつを掛け合わせることで、書店はサステナブルに運営できる。魅力的な美容室は地元の方々だけでなく、遠方から人を呼び込む装置になる。それは生活インフラでありながら、文化発信拠点にも、内と外の人が共に集う交流拠点にもなる――。私たちはふたつの港町で、そう確信しました。
「本と美容室」の萩への出店は、私たちにとって会社の未来を懸けた挑戦です。神奈川県内で育ててきた事業を、萩という土地ならではのかたちで、守り受け継がれてきた土地に新しい風を運んでくるような。そんな事業にしていきたいと考えています。

アタシ社の皆さん

修復後　　虫籠窓（むしこまど）も復元されました。

修復前

６０坪の家、４０坪のお庭。可能性は無限大。

　今回お借りする物件は、萩市が所有する明治初期の伝統的建造物。もとはお花屋さんだった物件を改修し、外壁、屋根、建具、土間などを造り直しています。浜崎伝建地区では、古き良き伝統ある風景を可能な限り保存。私たちがいる三崎ともまた違う、端正な港町の街並みが広がっています。
　ローカルはこれからもっと面白くなる。神奈川県の三崎、真鶴、山口県の萩・浜崎。アタシ社は縁あって、三つの「港町」に美容事業を展開していきます。
　港とは内外の人たちが行き交う場であり、誰かにとっては旅を終えて帰ってくる母港でもある。本と美容室は、そんな「港」のような場にしたいと考えています。

本と美容室　萩店
イメージ

広々とした室内。美容室、書店、カフェ、雑貨店になります。

　また、雑誌「**TURNS**（ターンズ）」の制作など、アタシ社の編集メンバーは全国の「おもしろきローカル」を四年にわたって取材してきました。ローカルとローカルがつながり、人々が行き交うことでカルチャーが混ざり合い、新しい何かが生まれてくる――。いつしか、そんな未来を思い描くようになりました。
「本と美容室　萩店」がオープンした暁には、アタシ社の編集メンバーも三崎と萩を行き来し、地域に根ざした編集やデザインに積極的に関わっていきます。
　美容も編集もデザインも、豊かでおもしろいローカルを作り出していくためのエンジンだと、私たちは考えているのです。
浜崎のみなさま、よろしくお願いします。

40坪のお庭。さまざまな人がともに憩う空間に。

浜崎新町の六十六部回国塔について（上）

【六十六部・全国を回り歩いた巡礼者】

六十六部（略して六部）は、全国を回り歩いた（回国または廻国）巡礼者です。長門国、周防国など、旧国六十六か国を回り、書写した大乗妙典（法華経）を各国一部ずつ納めて回ることから、六十六部と呼ばれました。当時の絵などによると、縦長の大きな笈を背負った、特徴的な恰好をしています。笈の中には書写した法華経や仏像が入っていました。納める場所は各国の著名な寺社、例えば国分寺や一宮等でしたが、場所や巡礼ルートは一定ではなく、「六十六か国を回ること」が重要だったようです。納める目的は自分の修行や先祖・関係者の供養、あるいは他人に委託されて代理で回る場合もありました。鎌倉時代頃から記録に見え、元々は修験者が行っていましたが、江戸時代になると庶民の間でも行われるようになりました。

【御朱印帳のルーツ】

六十六部が法華経を納めた寺社では、受け取りの証として、六十六部の持つ納経帳に日付と寺社名などを記し、御朱印を押しました。現在でも、江戸時代の六十六部の納経帳が各地に残っています。これは六十六部本人の記録のためのみでなく、他人の委託を受けて回った場合には、間違いなく回国して納めたという証拠になったと思われます。またこの納経帳から、どんなルートで、いつ、どこにお経を納めたかがわかります。小嶋博巳氏の研究によると、全国を回った期間は、六十六部が盛んになりはじめた18世紀初頭頃には1年半から2年程度が多く、後には長くなる傾向があり、6年から10年に及んだ例もあります。現在、御朱印集めが一種のブームになっていますが、御朱印帳のルーツはこの納経帳にあるのです。

【浜崎と六十六部】

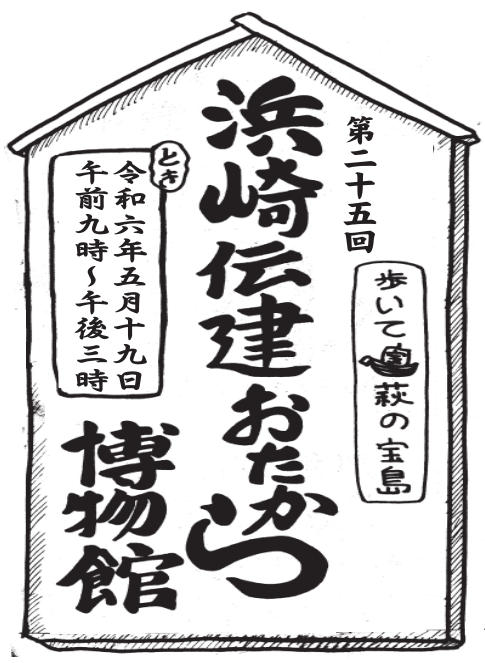
この六十六部に関わる石造物が浜崎に残っています。浜崎新町の泉流寺北隣にある常念寺墓地に「回国六十六部静誉寂入道者」と刻まれた石塔が立っています。このような石造物を「回国塔」と呼んでいます。常念寺墓地の回国塔は、石碑の高さ約68㎝、台座を含めた高さは約137㎝です。他の面に刻んである文字から、享保4年（1719）7月日の建立であること、「静誉寂入」は六十六部の法名で、俗名は武州江戸桜田備前町の山田六郎兵衛であることがわかります。また、「道者」については、古文書における六十六部の呼称として「回国道者」「回国者」「回国僧」等が見られます。江戸桜田備前町は現在の東京都港区西新橋一丁目付近、享保4年と言えば、藩校明倫館が堀内に開校した年です。この山田六郎兵衛については、現在、この回国塔の記録しかありませんので、どんなルートで萩に来て、その後どうなったのかはわかりません。なお、萩市内では浜崎の他、古萩の保福寺や玉江の金輪寺跡、大井の後地墓地、田万川の西堂寺六角堂前などで回国塔を確認しています。

【回国塔建立の理由】

回国塔は全国各地に残っており、刻まれた銘文などから、建立の理由がわかる場合があります。全国回国を成就した記念、また、立ち寄った先で地元の人から資金を集めて道の辻や難所に建立したもの、或いは、信心深い町人などが、通りがかった僧侶や六十六部に草鞋を提供する宿願を立て、それが1000人に達した記念に建立したものなどがあります。一方、旅の途中に志半ばにして、病気や事故で亡くなる六十六部もいました。回国塔の中には、旅の空で亡くなった六十六部の墓も含まれています。（続く）

柏本秋生

参考文献　山口県教育委員会『石州街道』2005 ※石州街道に限らず、山口県内の六十六部について、詳しく報告されています。
小嶋博巳「六十六部巡礼地再考」2019



5月19日(日)開催に向けて準備を進めています

今回は山口県警音楽隊（２５名編成）が登場！
３回目の浜崎蚤の市も出店数が増えました。
他にも美味しいものや出しものがいっぱい。
詳しくは４月中旬に配布されるチラシをご覧ください。

浜崎お雛様 ぼんぼり祭り

１月２７日「萩城下の古き雛たち」のオープニングイベントとして開催しました。
ぼんぼり点灯式の後、住の江保育園園児の合唱と踊りが披露されました。甘酒の接待もあり、コロナ禍後始めての開催に皆さん嬉しそうでした。

稲荷神社大祭
福引き大会
5月11日(土)
今年も豪華賞品
空くじなし！
主催　浜崎九友会

◆編集後記◆

先日の「バナナマンのせっかくグルメ」萩ロケでは浜崎が重点的に取り上げられ、放送後は舸子や、さるのこしかけは大賑わい。いまだにお客さんが続いているようです。

今回は萩市文化財保護課の柏本秋生さんに原稿をお願いしました。新しい視点で浜崎の歴史を紹介して頂けると思います。ご期待ください。

編集委員
宮田・川久保・岩崎・石村・平野・末益